

「最終選考レースでは、精神面・肉体面とも、最高の状態でした」

旬の人

土井 慎悟さん

Shingo Doi

芽室町出身 26歳

平成21年12月30日、長野県で開催された日本代表選考競技会(1500m)で2位に入り、夢であった五輪切符を手にした。

「少し時間がかかりましたが、やっとオリンピックに行けることになりました」。1月6日(水)、五輪出場報告のため町長室を訪れた土井慎悟選手が最初に発した言葉である。

「少し時間がかかった」という言葉の裏には多くの苦悩と努力、葛藤の日々が見え隠れする。大きな期待を背負っていたトリノ五輪出場を逃してから4年。「バンクーバーに向けて地元の実業団チームで活動できる環境があったことが大きい」と、大学卒業と同時に結成された実業団・開西病院(帯広市)への感謝を口にする。「地元でスケートができる喜びを感じた。チームやサポーターズクラブをはじめ地元の人が支えてくれることにやりがいを感じ、伸び伸びとスケートを続けてこられた」と言う。「コーチの存在も大きい。僕は昔から選手がコーチを選ぶべきと思っていました。最高のコーチを選ばせていただいたことに感謝している」と、100%の信頼を寄せ、尊敬する川原正行監督の話になると口調がやや熱くなった。

最終選考会では「精神面と肉体面が大一番でピッタリ合って最高の状態でした。芽室から駆けつけてくれた皆さんの声援もしっかり聞こえた」と言う。

五輪本番の抱負を聞くと、「久しぶりの国際大会。日本代表の一人としてベストを尽くし、世界での自分の位置を確認するのが楽しみ」と、苦悩の4年間で手に入れた“経験”を武器に、大舞台に臨む土井選手に気負いや緊張は見られない。「驚くほどリラックスしていた」という12月30日の最終選考会同様に、土井選手らしい、きれいで力強い滑りを期待したい。

平成22年1月6日

オリンピック出場報告に町長室を訪れた土井慎悟選手